

目的 和服製作という、かなり複雑な作業の組合わせである一連の縫製作業を一人の人間が行なう場合、全作業の習熟にはかなりの努力と期間が必要であろう。和服の生産は、そうした経験を経た熟練者たちによるところが多いのであるが、こうした縫製作業の習熟過程と、作業時間の面からしらべてみる。

方法 未熟練者の初期における習熟過程をみるため、被験者に学生・縫製職人(経験年数一年未満)各一名をきて、それぞれ連続8回作業を行った。又、長期熟練者の場合をしらべるため経験年数一、二、三、四年の各一名づつを被験者とした。調査対象に女物衿羽織をとり上げ、一定の材料と基準に従い作業を行う。全作業をメモリージョンカメラにより撮影、正確作業時間を対象とし時間分析を行った。

結果 全所要時間については、未熟練者の場合、学生では1回目と2回目の間で作業時間減少の割合が最大で13%減、2~3回目では9%減、3~4回目では6%減、6回目以後は減少はなく、この時、初回の32%減となっている。経験年数一年未満の職人の場合も、やはり1回目と2回目の間で減少度が最大で8%減、2~3回目でも6%減、以後大きな変化はない。縫製職人の場合は、基礎訓練が出来ており、作業にも馴れているため、連続作業の場合の習熟度も学生の場合ほど大きくない。ちなみに両者の初回の全所要時間では、学生は職人の1.6倍を要している。熟練者の場合、経験年数1.2年目の者と3.4年目の者との間で、所要時間の短縮がみられる。